



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、これを読んでくださる皆さん 2024年5月1日

皆さん、元気になっておられるでしょうか？いつも、心からそう願っています。

桜が散りはじめる頃から、静かだった小深浦の谷が活気付く！まだ薄暗いのに、カラスが起きる。カーカーとあくびのような声。でもキジは1発目から力強い！ケン・ケーン！家のすぐ前の田んぼだったところは、この3年、田植えをしていない。この時期ならすでに水を張ってるのだが荒れたまま。それでもカエルがピアノシモで、谷の左の方から鳴きだすが、そのうちクレッシェンドでメゾフォルテに。前ほどうるさくない。田に水がないからなあ。陽が昇り、少し暖かくなると、ウグイスが、谷のあちこちから自分流で歌い始める。まだほとんどが研修生だが、中に師匠がいる。師匠は、薄暗だろうが昼間だろうが、基本に基づいてしっかりと歌う。マジ自慢げに、その澄んだ力強い声で、この谷間に来る道場破りをくすぶり出す。その一羽に、私がいる。

「拙者が、お相手いたす」

この試合は、どれだけ上手に歌うかではない！くじけず、やめないで、立ち向かうだけの気力の勝負だ。ルールにのっとって合戦が始まる。私の武具はいろいろある。全部弦の武具。手を換え品を換え、立ち向かう。実際は一品でいいのだが……。本気でなくても、毎回私が勝つ。相手は気落ちし、「おぬし、逃げるのかー！」と私。ある師匠は、怒って、私に襲いかかろうと、すぐ近くまで来て、私にチェックを入れる。しばらく私を

見てるが、「なんだ、お前だったのか！」と飛び去る。どちらにしても、拙者の勝ち!!!

「手荒なまねをして、師匠、すまなかった！」

私の負けず嫌いは、ここにも出る。

ミステリー・神秘

人が真の神を知りたいと願う時、また知りたいと求める時、人は、神の前に、素直で、正直にならざるを得ない。それはミステリーです。それは、真の神を知りたいと願う人の心に、「神はすべてのことをご存じだ」という知識が、神から与えられるからだと思う。

「あなた方のうちで罪のないものが、最初に彼女に石を投げなさい」

律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中に置いてから、イエスに言った。

「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」

彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。

「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」

そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。

(ヨハネ 8:3~9)

このことは、罪というものが、人の前のことではなく、神の前でのことであるということイエス様は人に考えさせています。人は、他の人のすべてのことは知らないのです。もちろん他の人の心の中は当然です。ですからここで、誰に対して自分が罪人であるかということなのです。ここに出てくる人々は、天と地のすべてを造られた神、全知全能の神がおられることを知っていました。(個人的には知らなかったのですが、)ですから、仮に人の前には正しく見えても、天地創造の神の前には、自分が罪人であることを知っていたのです。そのことは、現在でも同じです。

八百万の神

しかし、私たちの国、日本には、その神ではなく、よく八百万やおよろずの神がいると言われてきました。それらの神々は、創造主の神が造られた万物(太陽、月、星、山、川、海、木、石、火、水などなど、あらゆるもの)を神としたり、神が造られたものを細工して神としたり、また、人を神としたり、死んだ人を神としたり、そのようにすべてのものを神としてきました。それらはどれも、造り主なる神ではありません。さらに、人は自分の手で巧みに偶像を作り、それを神に仕立て上げてきたのです。そして、それら自分たちが作った神によって、今日まで、自分の心の目をくらまされてきたのです。

そのことは、日本人だけではなく。「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造

ってはならない。」(出エジプト記 20:4~5)の神の戒めに逆らったすべての国、すべての人におよび、人は、万物の造り主なる神を知ることができないように、その目をくらまされてきたのです。

何もできなくなり、何もわからなくなる

彼らの偶像は銀や金で、人の手のわざである。口があっても語れず、目があっても見えない。耳があっても聞こえず、鼻があってもかげない。手があってもさわれず、足があっても歩けない。のどがあっても声をたてることもできない。これを造る者も、これに信頼する者もみな、これと同じである。(詩篇 115:4~8)

何の助けにもならない偶像

偶像を造る者はみな、むなしい。彼らの慕うものは何の役にも立たない。彼らの仕えるものは、見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。だれが、いったい、何の役にも立たない神を造り、偶像を鑄たのだろうか。見よ。その信徒たちはみな、恥を見る。それを細工した者が人間にすぎないからだ。彼らはみな集まり、立つがよい。彼らはおののいて共に恥を見る。鉄で細工する者はなたを使い、炭火の上で細工し、金槌でこれを形造り、力ある腕でそれを造る。彼も腹がすくと力がなくなり、水を飲まないと疲れてしまう。木で細工する者は、測りなわで測り、朱で輪郭をとり、かんなどで削り、コンパスで線を引き、人の形に造り、人間の美しい姿に仕上げ、神殿に安置する。彼は杉の木を切り、あるいはうばめがしや檜の木を選んで、林の木の中で自分のために育てる。また、月桂樹を植えると、大雨が育てる。それは人間のたきぎになり、人はそのいくらかを取って暖まり、また、これを燃やしてパンを焼く。また、これで神を造って拝み、それを偶像に仕立てて、これにひれ伏す。その半分は火に燃やし、その半分で肉を食べ、あぶり肉をあ

ぶって満腹する。また、暖まって、「ああ、暖まった。熱くなった」と言う。その残りで神を造り、自分の偶像とし、それにひれ伏して拝み、それに祈って「私を救ってください。あなたは私の神だから」と言う。

彼らは知りもせず、悟りもしない。彼らの目は固くふさがって見ることもできず、彼らの心もふさがって悟ることもできない。彼らは考えてもみず、知識も英知もないので、「私は、その半分を火に燃やし、その炭火でパンを焼き、肉をあぶって食べた。その残りで忌みきらうべき物を造り、木の切れ端の前にひれ伏すのだろうか」とさえ言わない。(イザヤ書 44 : 9 ~ 19)

神の子どもになった

私も、初めそうでしたが、クリスチャンに対して、人々は誤解をしていることがいくつかあると思います。その一つに、クリスチャンになると、その人は「絶対罪を犯さない」「絶対罪を犯さない人生を生きなければならない」のように考えていることです。もちろん罪を犯すべきではないのですが、そうではないのです。クリスチャンも罪を犯します。しかし、神がその罪を認めないので。

何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。(ローマ 4 : 4 ~ 8)

「ゲッターー!!!」「話が良すぎるじゃあないか!」「そりゃあ、自分勝手な考えだろうが!!!」しかし、それが神のあわれみ、また、神の恵みなのです。私たち罪人が神に赦されるためには、神のひとり子が、私たちに代わって、父から罰を受け、命を捨てるしかなかったのです。そして、人は、心一つで、神に赦されるのです。自分が、何かをしたからではないのです。イエスの身代わりの愛と罪を赦す力は、イエスの愛を受け取る人のすべての罪を取り除き、その人を罪のない者にするので。その人は、神の子として新しく生まれたのです。

神の子となる特権を神からもらったのです。神の子になった人は、お父さんである神が喜んでくださるように生きたい願いを持って、新しく生まれたのです。しかし、まだ、自分の弱さで罪を犯します。父なる神は、その子を貴重な自分の子どもとして、愛し、いましめ、教え、かわいがり、慰め、励まし、いたわるのです。

「人は、心に信じて義(神の前に正しい)と認められ、口で告白して救われるのです。」

イエスを神の子、自分のために命を捨ててくださった神の救い主と受け入れた人は、受け入れる前に、自分が神に逆らってきた罪人だったと認めた人です。そして、イエスを自分の救い主と認めた人です。そのことを認めるということは、そのことを、周りの人々に、すなわち、「他の誰に知られてもいい」と、神を知ること、他の何にも勝ることだと、神の前に、また人々の前に認めた人です。そのことを聖書でこう説明しています。

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」(ローマ 10 : 10)

口で告白するというのは、人前で自分のすべてを捨てて、自分にとって、神が一番大事だとわかったことを人に聞かせることです。初め私はその言葉がどういう意味かわかりませんでした。私が人に説明するために、神が教えてくださったのです。その人は自分のすべてを神に明け渡し、さらけ出し、まかせたのです。自分よりも、他のだれよりも、他の何よりも、神の方が大事だと。(実際、何も比べものにならないのですが。)神はその人のすべての罪を赦し、その人に神の子どもとなる特権を与えたのです。神の權威によって、神の霊によって、その人を新しく生まれさせ、神の子どもとしてくださったのです。神を知るためには、その人のすべてがかかるのです。

人が、神を知るために、神が与えた自我・自由意志

もう一つに、「クリスチャンになると、自分の自由意志がなくなる。自分の思い通りに、人生を生きることができない。」多くの人が、そのように誤解しているかもしれません。私自身も、クリスチャンになる前はそうのように考えていました。聖書に書いてあることを信じるなんて、クリスチャンは、洗脳されていると。

人は、神に自由意志を与えられて創造されました。そして、神は、人に与えた自由意志を、誰からも奪われないように、すべてのものから守っておられるのです。人はいつでも、どのような状況でも、自分で決めることができる自由意思を神から与えられているのです。誰もこれを奪うことはできません。自分の思うように、好きなように決めて、人生を進めるよう神に造られたのです。すべてのことに関してそうです。それは、その人が、神の創造の真理、イエスの愛、神の人々への約束など、イエスについてのそれらのことを聞く時、誰にも、また、何にも邪魔されず、その自由意志で、それを「知りたい」また、それが「欲しい」と神に意思表示をするためなのです。そのことは全く神の恵みであると同時に、神の奇跡の力です。神を知るためにはこの自由意志が必要なのです。ですから神は、この貴重で大切な自由意志を人に与え、それを守っているのです。もちろん、同じ自

由意志で、人は、神を無視し、神に逆らうこともできるのです。

人は、罪の奴隷

自由意志は持っていますが、人は、神から自由にされるまで、自由ではありません。罪の奴隷です。それも、自分の自由意志で罪の奴隷になりました。すべての人は「自分の罪の奴隷」です。これから抜け出ることができません。しかし、たった一つ、人が自由になる方法があります。それは天と地のすべてを造られた神の愛を受け入れることです。人は、まず、イエスの愛のことを聞きます。自分の自由意志で、「本当なら知りたい」と、イエスに心を見せるのです（私の言い方ですが）。その人の心に、イエスは神の真理を教えるようになるのです。そして、神はその人に、神の前で、その人がどんな人かを見せるのです。その時、自分とイエス、また、自分とイエスの十字架が、どのような関係かを神が教えてくれます。そして、神からもらった自由意志で、神の前にへり下り、自分の罪を神の前に認めるのです。その人は、自分の罪の身代わりになったイエスの愛を受け取り、すべての罪を赦され、神の真理を知り、真理は、その人を自由にするのです。



5月のLIVE Information

- | | | | |
|----------|-----------------|---|---------------|
| 5月3日(金) | キリストのぞみ教会 | 〒743-1421 静岡県掛川市大坂 3456-42 | |
| 5月5日(日) | 浜松クリスチャンセンター | 〒430-8005 静岡県浜松市西区神ヶ谷 2048-3 | 090-8188-4097 |
| 5月9日(木) | 関東学院大学金沢八景キャンパス | チャペルタイム 12時35分～12時55分
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 | 045-786-7218 |
| 5月10日(金) | 関東学院大学金沢八景キャンパス | チャペルタイム 12時35分～12時55分
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 | 045-786-7218 |

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24
FAX▶ 0833-91-6492
E-mail▶ thewindisblowing@hotmail.com

振替口座▶01330-4-93687 ザ・デイ

Noboru Morishige

P.O.BOX 1666
KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A
TEL ▶ 808-966-9252